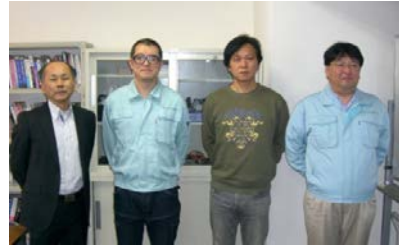


有限会社テクノフュージョン

1. 活用推進者

技術部 部長 北村 伸彦
 技術部 技術課 課長 波多野 匡
 技術部 技術課 主任 杉山 忠則
 技術部 技術課 主任 吉田 英治

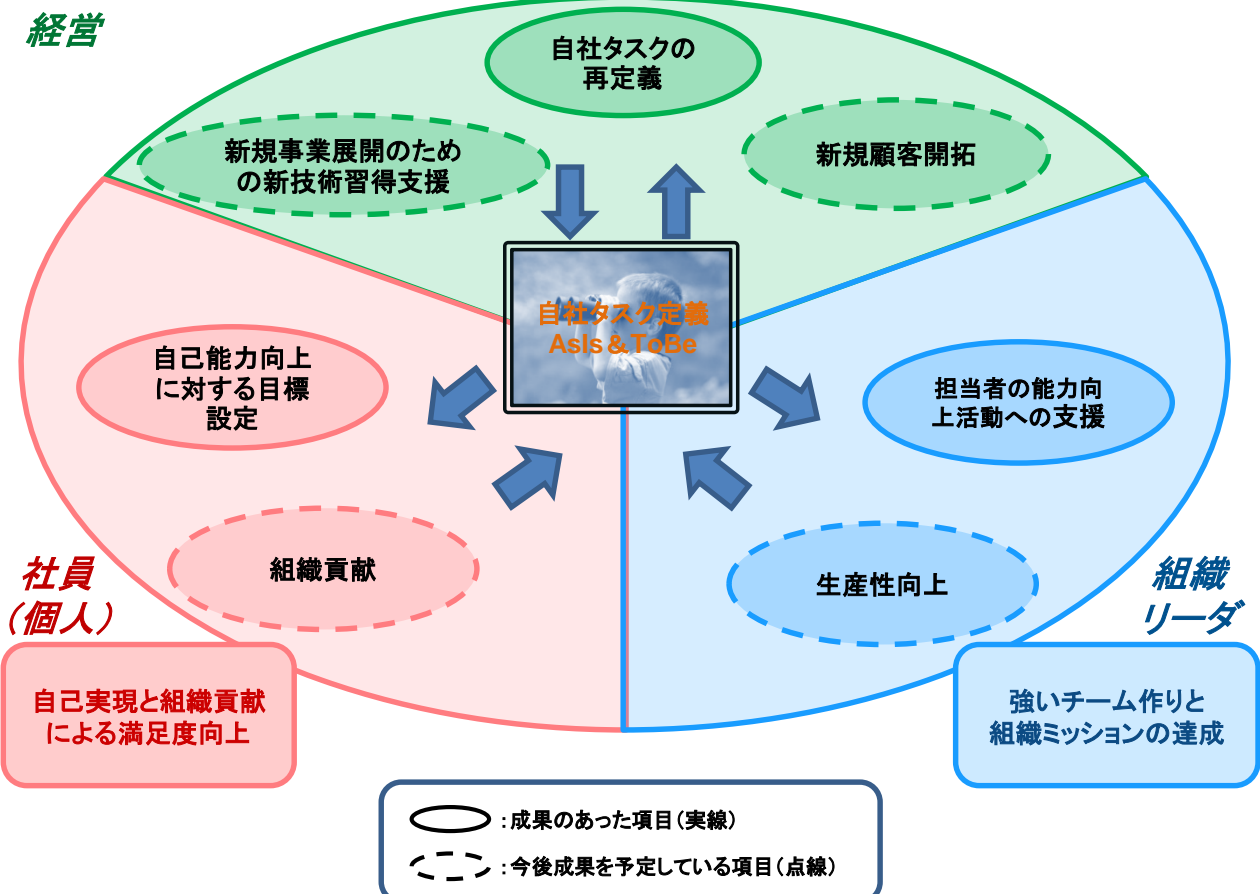


2. 会社概要

- 社 名 : 有限会社テクノフュージョン
- 所 在 地 : 名古屋市中区大須四丁目1番71号 矢場町中駒ビル905
- 設 立 : 1996年(平成8年)6月5日
- 代 表 者 : 代表取締役 赤尾 隆一
- 資 本 金 : 400万円
- 社 員 数 : 17名(2017年3月末現在)

3. iCD取組み効果

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築



4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1. 効果のあった項目	効果内容
自社タスクの再定義	IPAが提供する「iCD活用システム」を利用し、開発部門のタスクを再定義できた。現在は、順次、評価を実施中。
担当者の能力向上活動への支援	iCDの評価結果を踏まえ、担当者の能力向上活動での目標設定を支援できるようになった。現在は、その後の活動に対するフォローを随時継続中。
自己能力向上に対する目標設定	チームリーダーとの面談を通じて、自己能力向上に向けた目標を設定できるようになった。現在は、能力向上活動を継続中。

4.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
新規事業展開のための新技術習得支援	新規事業に向けた新技術の習得のため、さまざまなワーキンググループを立ち上げ、技術習得、検証作業などの実施を促す。
新規顧客開拓	新規顧客開拓に向けて営業部門の強化を図る。そのためのタスクの定義を実施する。
生産性向上	iCDを活用した各人の能力向上活動を継続し、組織全体のレベルアップを図り、生産性向上へ結び付けてゆく。
組織貢献	誠実、勤勉、自主的など、人間性を高めるようなマインドを培う。

5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

これまでは、現場で要求されるスキルを、個人マターで習得してきており、スキルの偏り、重要な役目を担う者が不足していたことが、如実に分かった。

今後は、実運用していく中で磨きを掛けながら、社の体制を整え、発展の原動力となるよう活用していくことが重要と考える。



現場リーダー

これまでなかった、グループメンバーのスキルに関する明確な指針を示すことができたので、メンバーとコミュニケーションを取る上で、より詳細なフォローが可能になると考えている。

今後は、さらに具体的なスキルアップ方法を詰めていく必要がある。

自分のスキルについて明確な指針ができたため、こういった部分が強みであり、弱みであるということがわかりやすくなった。



社員

6. iCD取組みの効果

■効果項目: 自社タスクの再定義

IPAが提供する「iCD活用システム」を利用し、開発部門のタスクを再定義できた。現在は、順次、評価を実施中。

すでに実施した評価では、各社員の弱み・強みが把握でき、目標設定の上でも十分に役立つことを確認できた。iCDを活用したこうした仕組みの運用が始まった事が大きな成果であり、継続して行きたい。今後は、部門及び全体の成長に合わせて、タスクを増やしていくことを計画している。

(経緯)

iCDで用意されたタスクは、個数が非常に多かったため、まずは、自社の現状に合わせて該当するもの、及び直近で不可欠な項目のみに絞って再定義を行った。利用した「iCD活用システム」はWEBシステムであるため、運用しやすく、直ちに社内開発部門への展開が可能であった。

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	L	L	L	L	L
			0	1	2	3	4
ソフトウェア製品開発	ソフトウェア要件定義 (外部・基本仕様書)	機能要件と非機能要件の定義	0	0	0	2	2
		インタフェース要件の定義	0	0	0	2	2
		概念データモデルの作成	0	1	0	1	2
		ソフトウェア要件の評価	0	0	0	2	2
	ソフトウェア方式設計 (外部・基本・詳細・内部仕様書)	ソフトウェアコンポーネントの方式設計	0	0	0	4	0
		インタフェースの方式設計	0	0	0	2	2
		コード設計	0	0	0	2	2
		監視・通知・障害対策機能の設計	0	0	0	3	1
	開発環境構築 (工程計画、プロジェクト管理)	開発環境構築計画の立案	0	0	0	3	1
		開発環境の構築と維持	0	0	0	1	3
	アプリケーション共通基盤設計・構築	アプリケーション共通基盤の設計	0	0	0	3	1
		アプリケーション共通基盤の構築・テスト	0	0	1	2	1
		アプリケーション構築の支援	0	0	0	3	1
	プロセス設計	プロセスの設計	0	0	0	3	1
ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアコンポーネント設計 (機能)						

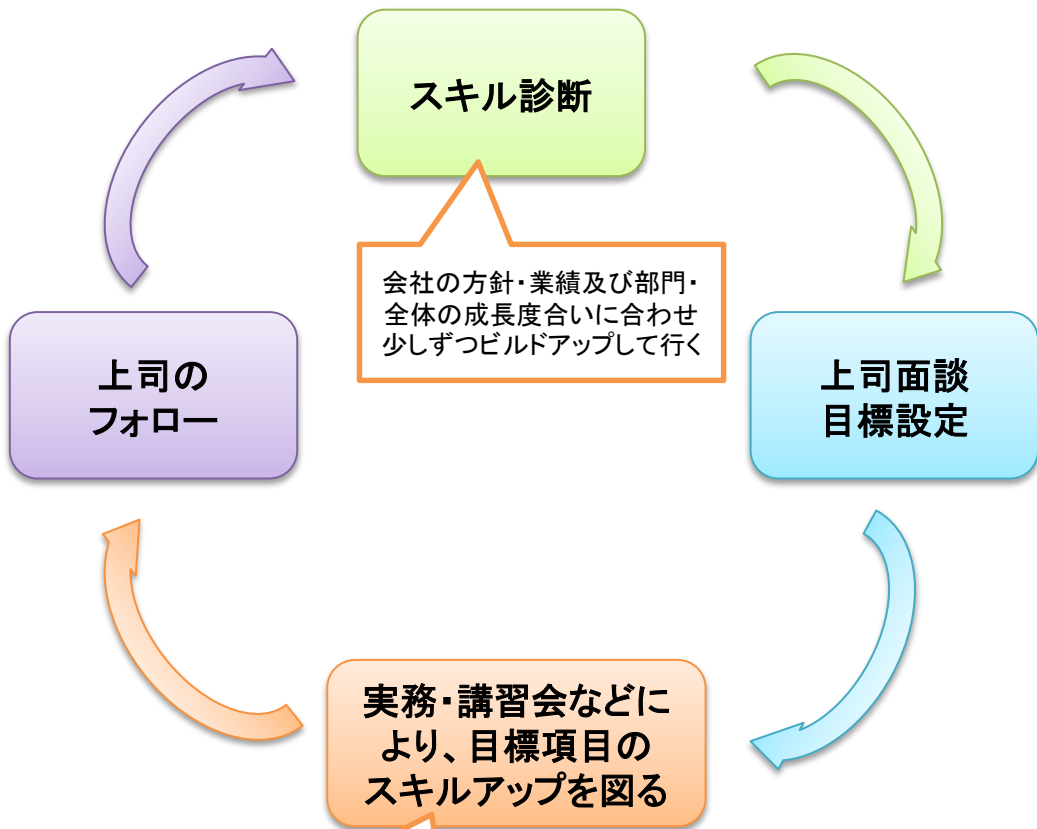
【参考資料1】「iCD活用システム」でのタスクポートフォリオ画面

6. iCD取組みの効果

■効果項目:担当者の能力向上活動への支援

iCDの評価結果を踏まえ、担当者の能力向上活動での目標設定を支援できるようになった。現在は、その後の活動に対するフォローを随時継続中。

自社タスク再定義・評価・目標設定・実施という流れの中で、チームリーダーが、担当社員への活動支援・技術支援を行った。また、この流れの中で、新技術習得のための複数のワーキンググループが立ち上がり、新規技術検証および習得活動に励んでいる(IoT、AR/VRなどのグループがある)。



少ない予算の中、人材育成をどのように行っていくかが、今後の課題となる。現状は、OJT中心で有るが、興味のある分野での勉強会、ワーキンググループなども立ち上がって来ているので、自主的に興味を持って勉強するという社風が出来上がってくれば、さらに良いと考えている。経営者側からの後押しもあり、新分野への挑戦も始まっている。

6. iCD取組みの効果

■効果項目:自己能力向上に対する目標設定

チームリーダーとの面談を通じて、自己能力向上に向けた目標を設定できるようになった。現在は、能力向上活動を継続中。

社員(個人)にとっての効果は、「自社タスクの再定義」と「担当者の能力向上活動への支援」という効果項目との関連が非常に大きい。特に、具体的な新技術習得という目標がモチベーションの向上にも役立っていると感じている。

まずは、前述の「能力向上活動の支援サイクル」をしっかりと回すことで、各人及び組織全体のスキルアップを図り、これを自社の業績向上に結び付けていく。弊社なりの人材育成計画をしっかりと立てて、必要な人材を自分たちで育てていければと考えている。

「能力上活動の支援サイクル」の流れで各担当者の各タスクに対する習熟度を評価し、その結果を直属の上司が確認することで、各人の弱み強みが明らかになった。すでにその結果を踏まえて、グループ長が各担当員と面談を行い、「目標設定シート」に短期の目標を設定した。ただし、進め方は各グループに任せているため、口頭や書面化など、実施方法はさまざまであり、共通化を図る。また、目標設定に対する評価は、まだ一部でしか実施されていない(2017年3月末までに全社的に実施予定)。iCD活用システムでのタスク診断は今後も継続し、さらに評価を進めていく。

白	自身設定した目標			
オレンジ	上司に指摘を頂いた目標			
薄オレンジ	指摘をもらって追加した目標			
灰色	指摘をもらって外した目標			
分類	種類	Lv(0~4)	理由	
開発	と非機能要件の定義	0	仕様をしない	本人が上司からの期待と自身の目標を設定
	ース要件の定義	1	仕様をしないと思う	
	タモデルの作成	2	データベースを認識しなかった	
開発	構築と維持	3	複数人プロジェクトの開発環境や人員の構築/管理はしたことが無い。できる	上司が面談時に期待する成長目標を設定
アプリケーション共通基盤設計・構築	アプリケーション共通基盤の設計	2	以前より良いが、人員の管理は不安。	
アプリケーション共通基盤の構築・テスト	2	net以外の経験がない。C/C++の力が圧倒的に強い。		
ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	2	net以外の経験がない。C/C++の力が圧倒的に強い。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
出力詳細設計	2	コーディングで不十分だと感じている部分です。経験も、netでしか無い。		
ソフトウェアコード作成・単体テスト	プログラム構造設計(モジュール分割・モジュール設計)	3	コーディングの力をあげる。net以外の言語の経験がうすい。	
	単体テスト仕様作成	2	採でも割と可能だと思う。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
	プログラミング	3	コーディングの力をあげる。net以外の言語の経験がうすい。	
	単体テストの実施と評価	3	採でも割と可能だと思う。	
ソフトウェア結合テスト(検査仕様書、検査シート)	結合テスト仕様作成	2	抽ステージール調整等、できるようになりた。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
	ソフトウェア結合	3	タプやテストツール作成の発想が無いので、できるようになりた。	
	結合テストの実施と評価	3	採でも割と可能だと思う。	
開発環境構築(行設計画、プロジェクト管理)	開発環境の構築と維持	1	み込み開発環境に興味あり。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアコンポーネント設計(機能分割・構造化)	1	状、組み込み開発のイメージが湧かない。C言語の知識不足。プロジェクトに加えてくるくらいには勉強が必要。	
	出力詳細設計	1	状、組み込み開発のイメージが湧かない。C言語の知識不足。プロジェクトに加えてくるくらいには勉強が必要。	
ソフトウェアコード作成・単体テスト	プログラム構造設計(モジュール分割・モジュール設計)	0	う一度組み込みの仕事をやりたい。VsWorks等組み込みOSの絡む事もしてみたい。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
	単体テスト仕様作成	0	装の延長線上か。	
	プログラミング	2	う一度組み込みの仕事をやりたい。VsWorks等組み込みOSの絡む事もしてみたい。	
	単体テストの実施と評価	2	装の延長線上か。	上司が面談時に期待する成長目標を設定
ソフトウェア結合テスト(検査仕様書、検査シート)	結合テスト仕様作成	0	装の延長線上か。あわよくば、設計等行う前口一度経験してイメージをつけた	

【参考資料3】目標設定シート(抜粋)